が如し」云云。法華経の薬王品に云く、「此の経は則ち為れ閻浮提の人の病の良薬なり」云云。七子の中に上の六子は且く之を置く。第七の病子は一闡提の人、五逆謗法の者、末代悪世の日本国の一切衆生なり。正法一千年の前の五百年には一切の声聞涅槃し了んぬ。後の五百年には他方来の菩薩大体本土に還り向い了んぬ。像法に入りての一千年には文殊・観音・薬王・弥勒等、南岳・天台と誕生し、補大士・行基・伝教等と示現して衆生を利益す。今末法に入りて此等の諸大士も皆本処に隠居しぬ。其の外閻浮守護の天神地祇も或は他方に去り、或は此の土に住すれども悪国を守護せず、或は法味を嘗めざれば守護の力無し。例せば法身の大士に非ざれば三悪道に入らざるが如し。大苦忍び難きが故なり。而るに地涌千界の大菩薩、一には娑婆世界に住すること多塵劫なり。二には釈尊に随いて久遠より已来初発心の弟子なり。三には娑婆世界の衆生の最初下種の菩薩なり。是の如き等の宿縁の方便諸大菩薩に超過せり。問うて曰く、其の証拠如何。法華第五の踊出品に云く、「爾の時に他方の国土の諸の来れる菩薩摩訶薩の八恒河沙の数に過ぎたる。乃至、爾の時に仏、諸の菩薩摩訶薩衆に告げたまわく、止みね、善男子、汝等が此の経を護持せんことを須いじ」等云云。天台曰く、「他方は此の土の結縁の事浅し。宣授せんと欲すと雖も必ず巨益無けん」云云。妙楽云く、「尚偏に他方の菩薩に付せず、豈独り身子のみならんや」云云。又天台云く、「告八万大士とは乃至今の下の文に下方を召すが如く、尚本眷属を待つ。験けし、余は未だ堪えざることを」云云。経釈の心は迦葉・舎利弗等の一切の声聞、文殊・薬王・観音・弥勒等の迹化・他方の諸大士は末世の弘経に堪えずと云うなり。経に云く、「我が娑婆世界に自ら六万恒河沙等の菩薩摩訶